**Weekly Reflection 7 (21st November)**

三宅　香菜子

七回目となる今回の授業では、日本語のあいさつの復習をした後に、鬼ごっこをした。三つあるうちの一つのクラスは前回新聞紙が不足して大きなかぶとが作れなかったので、今回は大きなかぶとを作ってから鬼ごっこをした。日本語のあいさつでは、大体の子どもたちが何かしらの日本語のあいさつを覚えていた。今回の復習でさらに定着すればいいなと思う。鬼ごっこは初めにルールを説明して実際に外でアクティビティーを行った。

良かった点は、子どもたちが楽しそうに外でのアクティビティーをしていたことである。ルールもすぐ理解し、多くの子どもたちが積極的に鬼になりたがっていた。ゲームの間は、子どもたちのはしゃぐ声が響き渡っていた。

課題は、外に出た後の子どもたちの集中を保つことである。最初のクラスでは、ルールの説明を外に出てからしてしまったため、子どもたちの注意を集めることが困難であった。次のグループからは、外に出る前にルールの説明をした。

気になったことは、鬼ごっこをして確かに子どもたちは楽しそうだったが、今日の授業で子どもたちは何を学んだのだろうと思った。もちろん日本語のあいさつや自己紹介のフレーズを復習したことは効果的だったが、はたして鬼ごっこから子どもたちは何を学んだのだろうかと心配になってしまった。「鬼ごっこは日本の遊びです」だけではいけないような気がした。アメリカにも似たような「タグ」という遊びがあって、鬼ごっこをしている間、子どもたちは「タグ！」などと言っていたことから、鬼ごっこをしている感覚は感じられなかったのかもしれない。もっと鬼ごっこを日本文化と関連付けて子どもたちに教えるべきだった。

個人的な反省点は、鬼ごっこの時にサングラスをポケットに入れていたら落として踏んでしまった。幸いそこまでひどく壊れなかったが、次回からは余計なものは身につけない、持っていないようにしようと思った。